

II. 1. 刊行物等

○ 言語文化共同研究プロジェクト 2023 目次

『自然言語への理論的アプローチ』

- 越智 正男 日本語と中国語の複数形態素の統語的性質についての考察
山田 彬堯 尊敬否定命令文「…てくださるな」から「…ないでください」への
歴史変化
ヤン ムイ A note on inferential evidentials in Qaraqalpaq
由本 陽子 身体部分名詞を結合した日本語の[N+V]複合語の特徴

『認知・機能言語学研究 IX』

- 王 鈺 中国語の分離動詞“V 掉”の意味特徴と多義化プロセス
小林 拓海 二重目的語構文における下位構文の再検討—owe, promise, guarantee に焦点
をあてて—
坂場 大道 The meaning of *setsunai*: A Japanese emotion term to express the “mixed” feelings
田尾 俊輔 The Concept of “Point” of the English Preposition *At*.
小葉 哲哉 「状態」を表す N フシテイル構文の意味について—現代日本語書き言葉均
衡コーパスを用いた調査から—

『Cultural Formation Studies VI』

- 木村 茂雄・小杉 世 はじめに
木原善彦 Richard Powers の作品における危機と世界の分岐点
——still という無時間性と時制の問題——
Amin Ghadimi The Globality of Suffering:
Tokutomi Kenjirō Meets ‘Abdu’l-Bahá in Palestine, 1919
Md. Mamunur Rahman The Politics of Representations:
‘Self-making’ and ‘Othering’ in Rudyard Kipling and R. K. Narayan
伊勢 芳夫 1930 年代の日・中の「歴史」創作について (2)
——「満洲国」言説の知の考古学的分析——
小杉 世 呉明益『雨の島—The Land of Little Rain』
——気候変動・障がい者文学と環太平洋的想像力——

『「文化」の解説 (24) —文化と環境—』

- Oliver Aumann Daoismus in Japan (1) —Okakura Tenshin—
鈴木 啓峻 対立するものの「イロニッシュな」結合
——トーマス・マン『ヨセフとその兄弟たち』と C. G. ユング——

劉 雅欣 「連結」される二つの世界
——高畑勲の作品における「背景」と「モンタージュ」をめぐって——

『テキストマイニングとデジタル・ヒューマニティーズ 2023』

田畑 智司 プロジェクトの目的と活動
浅野 元子 医療系日本語論文の英語抄録の言語特徴に関する探索的研究
——ジャンルに基づくコーパス研究の一環として——
藤田 郁 計量文体論手法による英作文の語彙比較：語学教育へのアプローチ

『言語文化の比較と交流 11』

田中 智行 『金瓶梅』の上京場面にみられる歌唱描写
——解説と訳注——
中 直一 粕谷真洋のドイツ語教育
——初級・中級向け文典と『獨逸語學雜誌』を中心に——
中村 綾乃 駐日大使ゾルフ
——上下逆さまのオペラグラスで舞台を観る——
三浦 あゆみ Reception of Latin among new English words in the *Wycliffite Bible*:
Some case studies of synonyms
渡辺 貴規子 大正期の少女雑誌『新少女』における西洋文化の受容
——フランスに関する記事を中心に——

『応用会話分析研究 2023—政治経済外交の相互行為実践—』

岡田 悠佑 「放置されている」ことを示すこと
——TikTok を巡る米公聴会の会話分析——
古川 敏明 地名「カプーカキー」と「レッドヒル」の指標性
——ハワイの環境汚染問題をめぐる公聴会の会話分析——
福島 玲枝 Facebook の中立性をめぐる意味の構築
——公聴会での回答における間接的回避の承認——
菊池 春花 Multi-turned Question Preface that Requires Remedial Response

『時空と認知の言語学 XIII』

高橋克欣 フランス語の直説法半過去形と談話的時制解釈
——高橋 (2016)の仮説に対する検討——
瀧田恵巳 『デュランデ城』におけるダイクシス (その2)
——原点移動の事例を中心に——
田村幸誠・松浦幸祐 認知音韻論の発展に向けて：
日本語の VOT とアクセント移動を事例に
春木 仁孝 ふたたびフランス語の隠喩性について

『応用言語学における理論と実践 —研究と教育を通して—』

- 西田 理恵子 学習意欲減退要因と無動機に関する実証研究：自己決定理論に基づいて
- Lee Shzh-chen Nancy Form-focused Instruction in Task-Based Language Teaching
- Záborská Schack Dorota Know Thyself: A Practical Report on Raising Psychological Literacy in the Content-Based EFL Classroom
- 綱澤 えり子 L2 WTC と関連要因の研究動向—L2 自信、動機づけ、国際的志向性、学習者エンゲージメントとの関係性—

『こちら側とあちら側のレトリック —メタファー・翻訳・認知—』

- 大森 文子 メタファーと美意識 —『百人一首』の花の歌とその英訳をめぐって—
- 渡辺 秀樹 英詩における主題提示音分散 (hypogram) 再考
Herrick と Wordsworth、Shakespeare と Blake の比較から
- Luke Malik How to Classify Philosophical Theories of Metaphor into Cognitivist and Non-Cognitivist Classes
- Andrew Murakami-Smith Writing the City in and against the “Osaka Tradition”
- 中村 瑞樹 American Ordinairiness Hidden Behind the Spectacle of Digital Technologies: An Analysis of Sports Symbolism in Don DeLillo’s *The Silence*
- 福本 広光 Clinton, G.W. Bush, Obama による分離不定詞の事例考察：“to fully V”の文体比較とフレーズ化をめぐって
- 竹森 ありさ 色彩語を含む強意直喩表現の形式比較 —as-simile と複合語—
- Doan Ngoc Minh Tran 「怒り」を表す感情概念に関するフレーム意味論的考察 —コーパス調査に基づくアメリカ英語の angry とベトナム語の giận を比較して—
- 山倉 佐恵子 否定疑問文「Vはしないか」における第二類否定疑問としての機能
- 劉 婉儀 日中対照の観点からの精神概念を表す身体部位の認知モデルについての
一考察 —「はら」「きも」を中心に—

『表象と文化 XXI』

- 川村 明日香 空間構造による語り——ディズニーパークを例に——
- 北村 卓 ボードレールにおける「孤独」の展開
——ロビンソン・クルーソーへの言及を通して——
- Salagnon Benjamin La possibilité d’une évaluation orale asynchrone :
utilisation de la plateforme Loilonote
- 篠原 学 将棋の駒を動かす
——堀辰雄の読むモーリアックの小説論——

『批判的社会言語学の様相』

- 王 滢鵬 特定技能制度における自発的転職をめぐらる問題に関する一考察
— 特定技能 1 号外国人へのインタビュー調査から —

- 川端 映美 同胞結婚した韓国人ニューカマー女性の移住背景と生活に関するライフストーリー
— 主体性(agency)に着目して —
- 植田 晃次 日本近代朝鮮語教育史の視点から見た笹山章と朝鮮語(2)
— 『普通学校に於ける国語教授の理論と実際』を手掛かりに —
- 山下 仁 批判的社会言語学とウェルフェア・リングイスティクスの接点
— あらたな批判的社会言語学の可能性について —
- 小川 敦 言語の振興を担う組織のあり方
— ルクセンブルク語センターの役割について —

『音声言語の研究 18』

- 梅野 真実 Is 'stop epenthesis' in English fortition, lenition or what?
郡 史郎 宮崎市およびその周辺の中・若年層の談話音調
— 男性話者の事例とそのモデル化 —
- 山本 武史 Foot reduction and refooting in English:
Why does *admirable* have preantepenultimate stress?

『ことばと社会③』

- 秦 かおり ウクライナ大統領ゼレンスキー氏のメディア表象
— 各国演説のマルチモーダル談話分析 —
- 岡本 能里子 多様性に拓かれた空間デザイン
— 公共サインの可能性と課題 —
- セメノワ・アナスタシア A Case Study of Multimodality and Strategic LGBT Narratives in Russian News
稲葉 皐 メディアに現れる留学経験者のステレオタイプ
— YouTube と TikTok 上の動画を事例に —
- リ・ヘンチョン 少子化対策の成立における被害者と加害者
— フェミニスト批判的談話分析を用いて —
- 山本 由実 制度的場面を持ち込んだインタビューにおける「フレーム」の変容過程
— 教員-学生間の雑談開始・終了部に着目して —

○言語文化共同研究プロジェクト 2025 一覧

整理番号	共同プロジェクト名	研究代表者	研究分担者(人数内訳)		
		氏名	氏名	教員	院生等
1	テキストマイニングとデジタル・ヒューマニティーズ 2025	田畑 智司	(教員)三宅真紀、今尾康裕、ホドシチェク ボル、鈴木大介、黄晨雯、吉賀夏子、南澤佑樹、菅原裕輝、岩根久(名誉教授)、徐勤(京都大)、浅野元子(大阪医科歯科大)、藤田郁(九州大)、八野幸子(帝塚山学院大)、杉山真央(名古屋外国語大) (院生等)曹芳慧、福本広光、カミレツリ ガブリエレ、ボガジャ デイミトラ、王簫影、Chen Yukai、李晨婕、肖媛媛、于拙、アンドリッチ・ジャクリーナ(研究生)	15	10
2	応用言語学における理論と実践 -研究と教育を通して	西田 理恵子	(教員)Lee Shzh-chen Nancy、金澤佑、Dorota Ząborská、Kim Miso (院生等)綱澤えり子	5	1
3	ことばと社会⑤	秦 かおり	(教員)佐藤彰、榎本剛士、岡本能里子(東京国際大) (院生等)稲葉皐、シャリファ・ヌル・シャヒラ、岸田月穂、山口(今野)篤美、李恒聡、張応謙、山本由実	4	7
4	Cultural Formation Studies VIII	ガデアミン	(教員)北井聡子、木原善彦、小杉世、櫻間瑞希、伊勢芳夫(名誉教授)、小倉永慈(名古屋外国語大)、木村茂雄(名古屋外国語大)、ラハマン マムヌール(イスラム大・バンガラデシュ)、安保夏絵(中部大)、石倉綾乃(神戸女学院大非常勤講師)、桑原拓也(奈良県立大) (院生等)王立瑩、東浦可奈、周 品回、春川千潮、王立珺(博論申請資格者)	12	5
5	自然言語への理論的アプローチ	杉本 侑嗣	(教員)越智正男、ヤンムイ、杉本侑嗣、葉 晨傑、由本陽子、宮本陽一 (院生等)永野大夏、邱曉石、岡田千佳、宮前純子、張栩、Zheng Haowen、Chen Yunwen、立野寛太、笠井源	7	9
6	認知・機能言語学研究 XI	小栗 哲哉	(教員)高橋克欣、中島浩貴、木本幸憲、眞野美穂(日本学専攻)、田尾俊輔(学際大学院機構)、梶原久梨子(全学教育推進機構)、早瀬尚子(龍谷大)、瀬戸義隆(追手門学院大)、坂場大道(同志社大) (院生等)孫聰雨、大井良友(課程博士論文申請資格者)、蘇曉笛(本研究科修了生)、王鈺、小林拓海、張栩、宇都陽鳳、金澤拓海	10	8

7	「文化」の解説 (26) —文化と分断—	鈴木 啓峻	(教 員) AUMANN Oliver、津田保夫、西出佳詩子、山本佳樹、徐玉(名古屋大) (院生等) 胡響樂、劉雅欣、劉子璿、李雪菲	6	4
8	応用会話分析研 2025 —制度的会話としてのアメリカ議会公聴会—	岡田 悠佑	(教 員) 古川敏明 (早稲田大)、平本美恵 (シンガポール国立大) (院生等) 福島玲枝、菊池春花	3	2
9	表象と文化 XXIII	林 千宏	(教 員) 北村卓、ガラベ クリストフ(神戸大)、サラニヨン バンジャマン、篠原学(外国学専攻)、デルベス セバスチャン、バルカ コランタン (院生等) 川村明日香、権田彩良、遠藤祐輔	7	3
10	批判的社会言語学の動態	植田 晃次	(教 員) 櫻間瑞希、山下仁(名誉教授)、小川敦(法政大) (院生等) 上田直輝、川端映美、陳凱歆、王澄鶴(言語文化学専攻修了生)	4	4
11	時空と認知の言語学 XV	王 周明	(教 員) 渡邊伸治、瀧田恵巳、井坂ゆかり、覚知頌春、春木仁孝、井元秀剛、高橋克欣、バルカ コランタン ジャン、田村幸誠、八木堅二、劉羸、孫樹喬 (院生等) -	13	0
12	音声言語の研究 20	山本 武史	(教 員) 郡 史郎(名誉教授)、韓 喜善(大阪樟蔭女子大/大阪大学国際教育交流センター招聘准教授) (院生等) 梅野真実、夏目琢磨	3	2
13	言語文化の比較と交流 13	鈴木 大介	(教 員) 中 直一(名誉教授)、佐高春音、田中智行、中村綾乃、平山晃司、三浦あゆみ(東京大)、渡辺貴規子 (院生等) 任 天樂、陸 書涵、程 安峰、永井もゆ(日本学術振興会特別研究員 PD)	8	4
14	身体化されたレトリック —色彩・感情・メタファー—	村上スミス・アンドリュウ	(教 員) 大森文子、田村幸誠、中畠浩貴、渡辺秀樹(名誉教授)、Yokota, Gerry(名誉教授)、中村瑞樹(外国学専攻)、福本広光(関西学院大) (院生等) 竹森ありさ、山倉佐恵子、Doan Ngoc Minh Tran、劉 婉儀、権田彩良、周鄭陽	8	6